

	取組状況	成果
特定健診 受診勧奨事業	R5:3市町村で受診勧奨実施。全市町村対象にナッジに基づく受診勧奨研修会を実施。 R6：全市町村対象の啓発チラシを作成。23市町村を対象に実情とニーズに応じ、主に情報提供事業対象者に特化した受診勧奨を実施予定。	受診率：全国順位は低迷しているが、上昇傾向。過去4年で14市町村が取組み実施、11市町村で受診率向上(R5利用の3市町村は現在受診率未確定)。 ○特定健診受診率(市町村国保)：31.5%(R3)→32.8%(R4速報値) ○保険者努力支援制度獲得点数(共通指標①特定健診・特定保健指導等実施率等)) R5全国平均53.7点、県平均30点 R6全国平均30.2点、県平均15点
保健所・国保 ミーティング	R5:全9保健所・支所で計67回の会議実施。全市町村のKDBデータ分析を実施。分析結果を市町村に提供し共有。 R6:引き続き、全保健所・支所で連携会議実施予定。状況に応じ研修会実施予定。	R5：KDB分析結果に基づき、第2期データヘルス計画最終評価及び第3期計画策定及び取組推進についての支援を実施。保健所・支所、市町村と連携の上、データヘルス計画について様式と項目の標準化を実施。第3期データヘルス計画策定済。
健診・医療・介護 データの体系的な 分析事業	R5：全市町村のデータ収集し、介護状況・疾病有病率等を分析。結果報告の研修会実施。 R6：全市町村のデータ収集及び、生活習慣病や、死亡率の高い心筋梗塞等に焦点を当てた分析を実施予定。	R5までの分析結果：特定健診について、40、50代の男性受診率の向上や、食習慣の適正化が重要であり、若年層へのアプローチが効果的と考えられた。 要介護高齢者について、糖尿病、高脂血症、心不全等の生活習慣病の有病率が高く、介護・生活習慣病予防の重要性が示唆された。 大腸がんの効果検証を実施、健診受診回数と重症度の低下について因果関係が確認でき、市町村の取組支援が図れた。
医療機関との連携 による特定健診受 診率向上対策事業	R5：県医師会報への事業掲載、医療機関・医師用の啓発資料により啓発実施。 R6：継続し、県医師会と連携の上、資料作成及び啓発を実施する	情報提供件数は年々増加。特定健診受診率は増加傾向。 情報提供件数：1535件(R3)→1777件(R4)→3162件(R5) 特定健診受診率(市町村国保)：31.5%(R3)→32.8%(R4)→R5未公表
糖尿病性腎症重症 化予防事業	R5：現状分析に係る研修会開催、シンポジウム開催、保健指導のスキルアップを目的としたセミナーを開催 R6：継続し、市町村のニーズに応じながら、人材育成を図るための各種研修会やシンポジウムを開催する。	○糖尿病性腎症による新規透析患者数： 238人(R1)→230人(R2)→268人(R3)→211人(R4) ○糖尿病医療費：78.5億(R1)→77.4億(R2)→78.1億(R3)→75.0億(R4) ○保険者努力支援制度獲得点数(共通指標③生活習慣病の発症予防・重症化予防) R5全国平均84.0点 岡山県平均77.2点 R6全国平均59.8点 岡山県平均56.1点
糖尿病性腎症重症 化予防アウトカム 評価事業	R5：全市町村のデータ分析を実施。 R6：継続し、全市町村からのデータ収集及び分析を実施する。	eGFRの平均値が、医療受診しなかった集団では-1.94低下したことに対し、医療受診した集団では-1.03に留まっており、医療受診が重症化予防に有効であることが示唆され、市町村の受診勧奨の取組支援が図れた。 尿中アルブミン測定協力市町村の増加(R4:15→R5:17) 継続し全市町村からの情報提供及び分析が実施でき、データ蓄積が図れているため、長期視点での分析が可能となる。
医療費等分析による CKD重症化予防モデル事業	R5:医療費、透析患者の現状について、全市町村の分析を実施。保健指導用資料の作成、全国的なCKD医療ネットワークの構築、重症化予防モデル事業に参加した市町村の個別支援及び研修にて好事例の展開を実施 R6：継続し市町村のニーズに応じながらの取組推進を図る	新規透析導入患者数:706人(R2)→653人(R3)→618人(R4) 人口比：0.37(R2)→0.35(R3)→0.33(R4) 透析医療費：75.2億(R1)→78.0億(R2)→77.2億(R3)→72.0億(R4)